

鐵道省建設局計畫課長 池原英治氏の逝去を悼む

鐵道省建設局計畫課長池原英治氏は、兼て盲腸炎の爲新宿鐵道病院に入院療養中であつたが、本年四月七日手術後経過不良にて同二十一日午前二時同病院に於て永眠された。危篤の報傳はあるや高等官二等、從四位勳四等に敍せられた。享年四十七歳である。

氏は新潟縣糸魚川町の人、明治四十四年東京帝大土木工學出の秀才であつた。同窓として著名なるは内務省の物部長穂博士、鐵道省の黒田武定氏、古川淳三氏、堀越清六氏等である。卒業後直に鐵道省に入り、大正四年秋田建設事務所にて所長八田嘉明氏の下で羽越線の工事を擔當し、雄物川橋梁工事に努力した。尙當時有名なる折渡隧道の難工事に對して日本に於る最初のシールドが使用されたのであつた。氏は直接之に關係しなかつたとしても、後年氏が隧道工事に對する技術的研究心は恐らく、此時代から發端したものであらう。

大正十年熱海建設事務所に轉じ、泉越隧道工事及び世界的な難工事たる丹那隧道工事を擔當した。大正十二年六月海外留學を命ぜられ、歐米の鐵道建設事業を視察して昭和二年の末に歸朝し、直に熱海建設事務所長となり再び丹那隧道の難工事に其蘊蓄を傾倒して新工法を實施した點も少くない。

其後暫らく本省に入り、建設局長中村謙一氏及び工事課長橋本敬之氏の下に至つて建設



工事全般に亘り研究する處甚だ多かつた。

昭和四年七月建設局計畫課長となり今日に及んだ。

氏は特に隧道工事の熱心なる研究家であつたのみならず、一般建設工事及び計畫に對しては常に透徹せる見解を有してゐた。そは氏が總てに對し徹底せる科學的研究の結果であると言はねばならぬ。

氏は何等の趣味娛樂を有せず、唯單に讀書が唯一の生命であつた。而して氏の讀書は宗教、哲學、文學科は學等にわたり、宅に在りて藏書に埋まるの有様であつた。氏は技術家にして且つ學者であつた。特にサイエンスに興味を有ち、天文學

上の知識も又一家をなしてゐたと/or>はれる。

斯の如き讀書家の池原氏も著書は少く、昨年發行をされた高等土木工學全書の一たる『鐵道工學特論』一冊こそ氏の一生を記念するものであらう。同書は菊判六百頁の大冊で、氏が透徹せる頭腦に依り鐵道全般の工學的敍述をしたもので、恐らく近代的名著の一であらら。

今日の日本帝國は此の如き技術家に期待してゐる處甚だ大なるものがあつたのに、人生の働き盛を前にしてはかなくも散つて逝かれることは、誠に哀惜極りなく、特に遺された人々の爲に今更に同情の涙なきを得ぬ次第である。茲に衷心追悼の情を滿して本文を草す、庭前の櫻花片々として再び枝にかえらず、感慨又無量である。

因に池原氏は令夫人との間に二男四女がある。告別式は四月二八三日午後一時品川正徳寺に於て嚴かに執り行はれた。